

兵庫県南部地震

液状化発生



地震の概要

発生日時 1995年1月17日5時46分

震度 マグニチュード 7.3

被害状況 地震のゆれで、兵庫県の南部を中心に死者6,434名、行方不明3名、負傷者43,792名、家屋の全壊104,906棟、半壊144,274棟、がけ崩れ374箇所等の甚大な被害が発生した。

※地震の概要は内閣府「防災情報のページ」（2006年5月19日現在）の内容を編集

※災害状況図（拡大図）は「平成7年兵庫県南部地震災害現況図」を編集

地震のゆれで、家屋倒壊や液状化などの被害発生したよ。

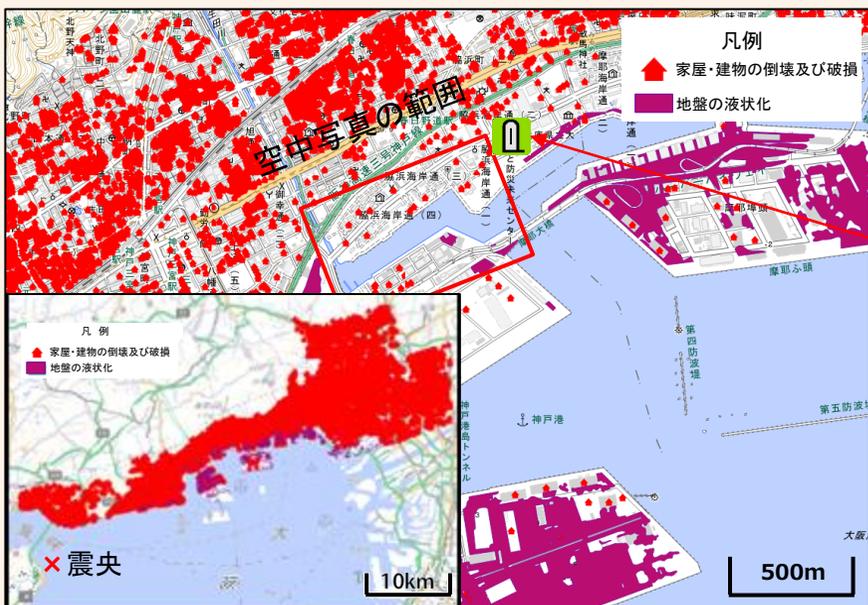
なぜこの地震が起こったのかな？

被害があった場所はどのような土地の成り立ちだったのかな？

いろいろな地図と重ねて、考えてみよう！



災害状況図(拡大図)



空中写真

1995年1月17日撮影



自然災害伝承碑 伝承内容

碑の形は、震災が発生した5時46分を指す時計の針をデザインし、碑の中には犠牲者全員の名簿が納められている。敷地内には「神戸の壁・鎮魂と復興のベンチ」と「阪神高速道路コンクリート橋脚」の一部がある。

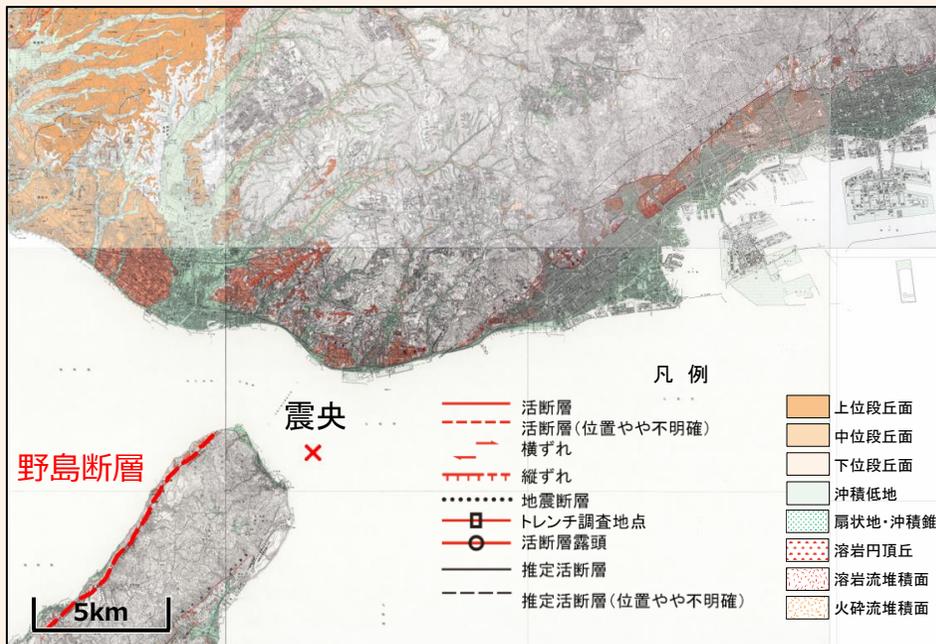
鎮魂の碑



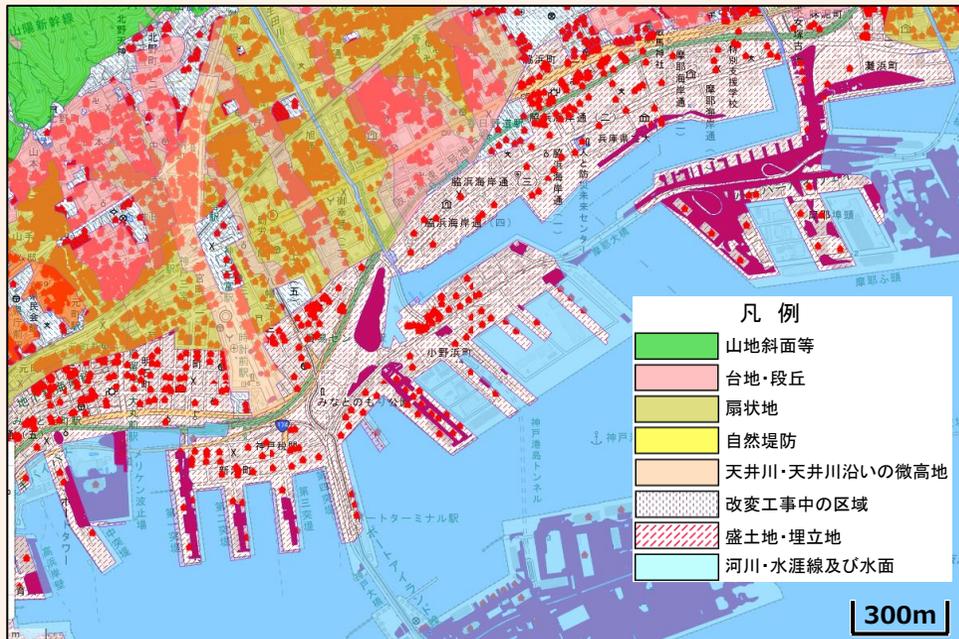
※この図はすべての被害状況を表しているわけではありません。



活断層図



土地条件図



活断層図を重ねてみると、震源の近くに断層帯があることがわかるよ。

土地条件図と重ねてみると、どのような土地で液状化が発生しているのか、よくわかるよ。

家屋倒壊はどうなっているかな。

この活断層は六甲・淡路島断層帯の野島断層というよ。

この地震は六甲・淡路島断層帯の野島断層の活動と言われているんだ。



海を埋め立てたところは地面が液状化しやすいんだ。

地面が液状化するとマンホールが浮き上がったり、建物が傾くこともあるから注意が必要だよ。

家屋倒壊は、建築年代や材質にも関わってくるから、地形の観点だけから被害の多さを説明することはできないんだ。

